

---

---

# 淀川水系淀川右岸ブロック 河川整備計画(変更原案)について(概要)

---

---

# 淀川右岸ブロック河川整備計画(変更原案)についての説明概要

## ■ 淀川右岸ブロックの主な特徴

### (治水面)

○平成22年6月に策定した「今後の治水対策の進め方」に基づき、各河川について治水目標及び治水手法に基づき、審議を行った結果は以下のとおり。

○東檜尾川は、時間雨量65ミリ程度の降雨による洪水を対象に河道改修による整備を設定した。

○芥川、女瀬川、西山川、檜尾川、水無瀬川は、時間雨量80ミリ程度の降雨による洪水を対象に河道改修による整備を設定した。

### (環境面)

○流域の自然環境は、市街地内の貴重な水辺空間として利用されている。

○各河川ともに、取水堰や床止め等の河川横断構造物が数多く存在し、水生生物の行動範囲が限定され易い状況にあり、縦断的な連続性を改善する必要がある。

○河川空間利用については、地域の市民団体による自然観察会、清掃活動、簡易魚道の整備等が行われている。



これまでの治水面の審議及び前回審議会の環境面の審議結果により、淀川右岸ブロックに特化した項目について説明。

# 前回審議会での委員指摘事項と対応方針

## ■ 前回の環境面、景観面の審議会時の委員指摘事項と対応方針

### 1. 淀川本川合流点の落差について

指摘事項	対応	本文の記載内容
<p>○淀川本川と支川で連続性が確保できていないところがあるように思うが、生態系のためにも、国に働きかけるべき。</p> <p>○また、生態系の保全目標についても記載してもらいたい。</p>	<p>○淀川本川との合流点付近の落差については、改善の必要性や実現性等について関係機関と協議を行う旨を記載。</p> <p>○大阪府の河川環境の目標として記載</p>	<p>(1)河川における連続性の確保(P28)</p> <p>なお、淀川本川との合流点付近の落差については、改善の必要性や実現性等について関係機関と協議を行います。</p> <p>3. 河川環境の整備と保全に関する目標(P16)</p> <p>第一に、河川工事実施に際しては、河川全体の自然の営みや周辺環境の土地利用状況を視野に入れたうえで、「河岸やみお筋の保全」、「上下流の生物移動の連続性確保」、「周囲の景観との調和」など河川毎の特性に応じ、多自然川づくりを取り入れ、それぞれの河川が本来有している生物の生息・生育環境の保全・再生を目指します。</p>



芥川 女瀬川合流点下流部  
(魚道あり)



檜尾川 淀川合流点付近  
(約500mにわたり、護床ブロックが設置されている)



水無瀬川 桂川合流点  
(魚道なし)

# 前回審議会での委員指摘事項と対応方針

## ■ 前回の環境面、景観面の審議会時の委員指摘事項と対応方針

### 2. 公園整備・河道内へのアクセスについて

指摘事項	対応	本文の記載内容 (P28)
<p>○公園整備の実施主体毎に、整備方針の記載の仕方を変えるような工夫をしてはどうか。</p> <p>○河川空間利用において、水辺とふれあう空間の確保が、必ずしもブロック全体の課題ではないため、課題の表現に検討の余地があるのではないか。</p>	<p>○公園整備の実施主体が分かるよう記載した。</p> <p>○地域のニーズを踏まえて整備する旨を記載した。</p>	<p>(4)空間利用 河道内へのアクセスの乏しい河川では、安全対策と利用ルールを策定し、親水階段の設置等、地域住民のニーズを踏まえ、アクセスの改善を図ります。 また、芥川では、高槻市が申請、平成26年3月に国土交通省が登録した「かわまちづくり」計画に基づき、河川整備や遊歩道整備等を行います。</p>

# 前回審議会での委員指摘事項と対応方針

## ■前回の環境面、景観面の審議会時の委員指摘事項と対応方針

### 3. 生物について

指摘事項	対応	本文の記載内容 (P2)
○底生生物及び昆虫類の記載が少ないのではないかと。高槻市ではホタルが生態系の象徴的なものであるため、その餌となるカワニナ等について記載してはどうか。	○ゲンジボタル及びカワニナについて記載した。	①芥川 中流部は摂津峡を流れた後、田園地帯となり、瀬や淵が形成されオイカワやカワムツ等の魚類が見られるほか、昆虫のゲンジボタルやその餌となるカワニナが確認されています。

### 4. 水利用について

指摘事項	対応	本文の記載内容 (P28)
○農業用水などの適正かつ効率的な水利用を図るとあるが、具体的な方法を教えてもらいたい。	○水量や取水堰等の利用実態を調査する。	流水の正常な機能を維持し適正な河川管理を行うため、継続的な雨量、水位の観測データの蓄積と分析による水量の状況把握や取水堰等の流水の利用実態の調査を行います。



# 第1章 第1節 流域及び河川の概要

## 1. 流域の概要(P1)

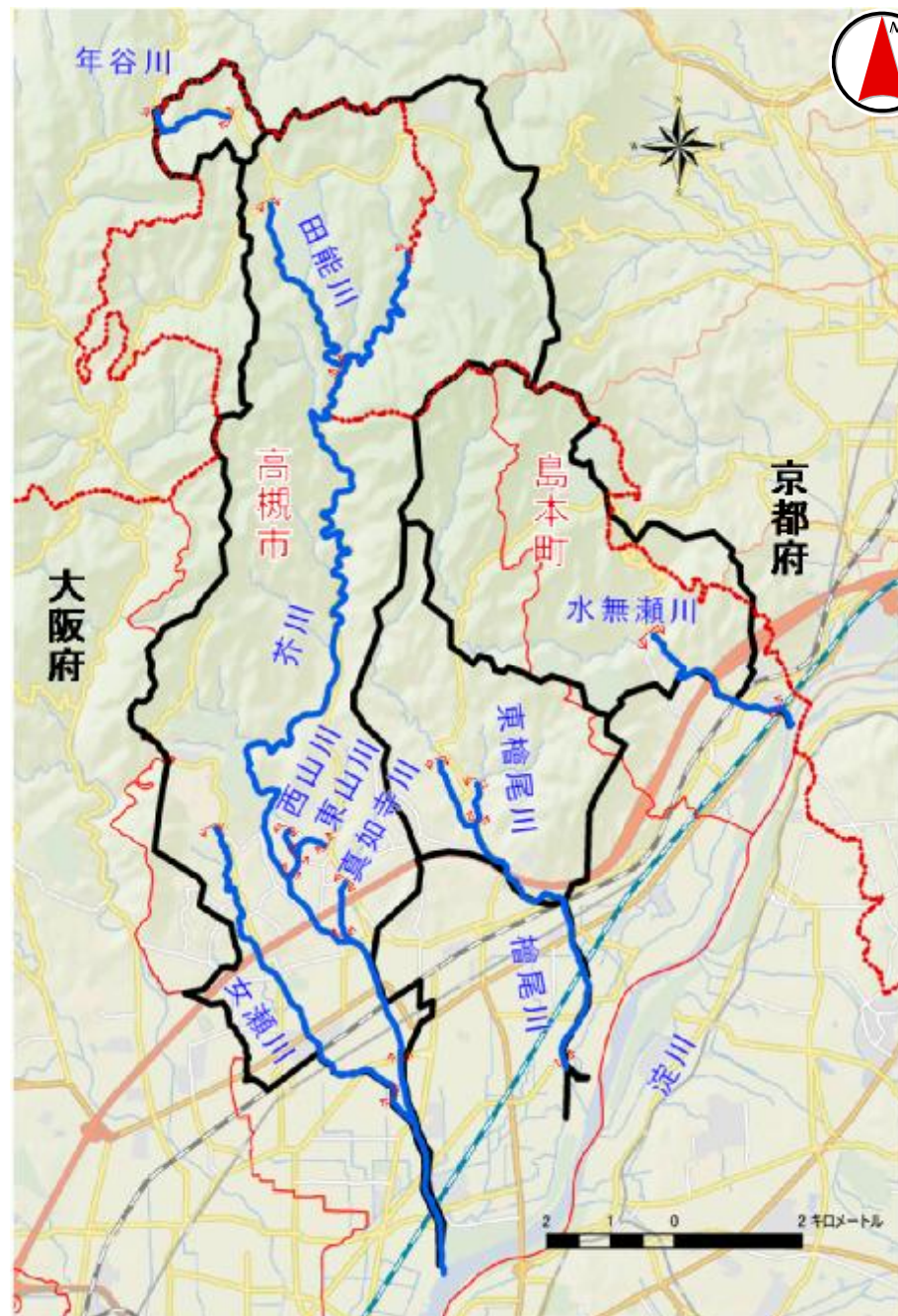
淀川水系淀川右岸ブロックは、芥川、檜尾川、水無瀬川流域および年谷川から構成され、各河川は北摂山系にその源を発し、淀川に右岸から注ぎ込む一級河川です。

流域は、高槻市、島本町、および京都府京都市、長岡京市、大山崎町の3市2町にまたがり、流域の8割以上が山地で構成されています。

戦前まで、流域は山地と農村地帯で占められていましたが、昭和30年代後半からの高度経済成長に伴い下流部の宅地開発が急激に進みました。

河川名	流域面積(km <sup>2</sup> )	指定区間延長(km)
芥川流域	50.14	31.6
芥川	36.26	19.3
女瀬川	4.44	6.0
真如寺川	2.08	1.0
西山川流域	2.16	1.6
西山川	1.02	0.9
東山川	1.14	0.7
田能川	5.20	3.7
檜尾川流域	11.56	7.0
檜尾川	7.76	6.2
東檜尾川	3.80	0.8
水無瀬川	17.45	4.0
年谷川	2.60	1.4
合計	81.75	44.0

凡例	
<span style="color: red;">■</span>	府県界
<span style="color: red;">—</span>	市町村界
<span style="color: blue;">—</span>	河川
<span style="color: red;">↔</span>	管理区間
<span style="border-bottom: 2px solid black;">—</span>	流域界



# 第1章 第1節 流域及び河川の概要

## 2. 流域の特性(P2)

魚類の確認状況(平成23年度調査)

### (1) 自然環境特性(P2・P3)

芥川上流部は、山間部を流れる渓谷で、ドンコやカワヨシノボリ等が確認されています。中流部は田園地帯となり瀬や淵が形成され、オイカワやカワムツ等が見られます。下流部では、川幅が広くなり砂州にはクズやヨシ等が繁茂し、カマツカやオイカワ等が見られます。

檜尾川上流部は、樹木が両岸に迫る山間部を流れています。中流部の市街地に出ると瀬や淵が形成され、オイカワやカワムツ等が見られます。下流部は川幅が広く、ゆるやかな流れとなりコイやギンブナ等が確認されています。

水無瀬川上流部は、樹木が川岸に迫り、瀬と淵があり変化に富む流れとなっています。下流部は市街地の中を流下し、平瀬に生息するオイカワやカワムツ等が確認されています。

科	種名	在来種 /外来種	芥川	檜尾川	東檜尾川	水無瀬川	環境省レッドリスト (2012)	大阪府レッドリスト (2014)
コイ	コイ		●	●				
	ゲンゴロウブナ		●					
	ギンブナ		●	●	●	●		
	フナ属		●					
	カネヒラ		●	●				
	オイカワ		●	●	●	●		
	カワムツ		●	●	●	●		
	ヌマムツ		●		●			絶滅危惧Ⅱ類
	モツゴ		●					
	カワヒガイ		●					絶滅危惧Ⅰ類
	ムギツク		●					絶滅危惧Ⅱ類
	タモロコ			●				準絶滅危惧
	カマツカ		●					
	コウライニゴイ		●					
	ニゴイ属		●					
コウライモロコ		●						
アブラハヤ					●		情報不足	
タカハヤ		●	●	●				
ドジョウ	ドジョウ		●	●				絶滅危惧Ⅱ類
	シマドジョウ		●					準絶滅危惧
ナマズ	ナマズ		●				準絶滅危惧	
アユ	アユ		●				準絶滅危惧	
サケ	ニジマス	外来種	●					
カダヤシ	カダヤシ	外来種	●			●		
メダカ	メダカ		●	●				絶滅危惧Ⅱ類
タウナギ	タウナギ	外来種	●					
サンフィッシュ	ブルーギル	外来種	●					
	オオクチバス	外来種	●	●				
ボラ	ボラ		●					
ドンコ	ドンコ		●	●	●	●		
ハゼ	カワヨシノボリ		●	●	●	●		
	トウヨシノボリ		●					情報不足
	オオヨシノボリ		●					情報不足
	シマヨシノボリ			●				情報不足
	ヨシノボリ属		●					
ヌマチチブ		●						
タイワンドジョウ	カムルチー	外来種	●					

区分	備考
絶滅危惧Ⅰ類	大阪府内において絶対の危機に瀕している種
絶滅危惧Ⅱ類	大阪府内において全滅の危険が増大している種
準絶滅危惧	大阪府内において存続基盤が脆弱な種
情報不足	評価するだけの情報が不足している種

# 第1章 第1節 流域及び河川の概要

## 3. 河川の特徴(P6)

### (1) 芥川(P6・P7)

上流部は、V字溪谷をなす山間部を府道と並行に流れています。植生豊かな山地が河岸に迫り、水量は多く、瀬と淵、段差と変化に富む流れです。川幅は約15mで、一部原大橋付近は約25mになります。河床勾配は約1/30～1/80となっています。

中流部は、原地区では田園地帯を流れる河川風景ですが、摂津峡において再びV字溪谷をなしています。摂津峡は山地が両岸にせまり、また川底には大きな岩が多くあり、水の流れに変化がある美しい峡谷となっています。摂津峡を過ぎると再び田園地帯の中をゆるやかに蛇行しています。河岸はブロック積護岸で整備されており、瀬と淵が形成され、水筋は蛇行し、砂州には植物が繁茂しています。川幅は約20～50mと摂津峡から平地部にかけて変化に富んだ流れとなっています。また、河床勾配も約1/80～1/200となっていますが、摂津峡において約1/20～1/40と部分的に急になっています。

下流部は、市街地の中を流れています。河岸は主にブロック積護岸で整備されていますが、川幅が広くなり、水量も多く、砂州には植物が多く繁茂しています。さらに女瀬川と合流点付近では、住宅、工場、高層住宅および高圧線の鉄塔の立ち並ぶ、広々とした空間の中を流れています。川の中には高水敷が設けられ、人工的な感じですが、川の広がりによってそれを和らげ、水と緑の市街地のオープンスペースとなっています。沿川には、桜堤公園や防災ステーションが整備されています。川幅は約50mで、さらに女瀬川合流点より下流では約80mとなっています。河床勾配については約1/200～1/600と全体的に緩くなっています。鷺打橋より下流では、淀川と合流するため、高水敷がさらに広くなり、眺望も開けたものとなります。



上流部



中流部



下流部



# 第1章 第1節 流域及び河川の概要

## 3. 河川の特徴(P6)

### (2) 檜尾川(P8)

上流部は、両岸に樹木が迫る山間部を流れています。山間部から中流部の市街地に出ると、右岸は宅地、左岸は道路と接して、ゆるやかに蛇行しています。河岸はブロック積護岸で整備されていますが、植物が繁茂し、また砂洲にも植生が見られます。川幅は山間部では約5m、山間部から出て名神高速道路までが約15mとなっています。河床勾配は約1/100～1/150となっています。

下流部は、市街地の中を流れています。河岸は、高水敷がブロック積護岸、低水敷が矢板護岸で整備されています。淀川に近づくとつれ、川幅が広くなり、開放感のある景観となります。川幅は約25mであり、淀川合流点付近では約70mとなります。河床勾配は約1/150～1/600となっています。



上流部



中流部



下流部

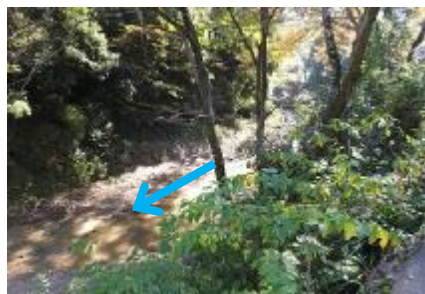
# 第1章 第1節 流域及び河川の概要

## 3. 河川の特性(P6)

### (3) 水無瀬川(P9)

上・中流部は、V字渓谷をなす山間部を府道と並行に流れています。植生豊かな山地が河岸に迫り、水量はそれほど多くはありませんが、瀬と淵があり変化に富む流れとなっています。川幅は約10mで、河床勾配は約1/30~1/70となっています。

下流部は、市街地の中を流れています。河岸はブロック積護岸で整備されていますが、川底の砂洲や砂礫の堆積および植生の繁茂が見られます。東大寺公園は高水敷を利用したオープンスペースとなっており、緑豊かで周囲によく溶け込んでいます。川幅は約25mで、河床勾配は約1/70~1/350となっています。



上流部



中流部



下流部(東大寺公園)



下流部

# 第1章 第4節 河川整備計画の目標

河川名	現状(P10)	課題(P10)	目標(P15)
芥川	昭和35年度より改修に着手し、現在、JR橋梁より下流では時間雨量80ミリ程度、JR橋梁から塚原橋までは、時間雨量50ミリ程度の改修が完成しています。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量80ミリ程度
女瀬川	時間雨量50ミリ程度の改修が完成しています。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある	当面の治水目標は時間雨量80ミリ程度
東山川	時間雨量50ミリ程度の改修が完成しています。	-	現状で治水目標レベルを達成済
西山川	時間雨量50ミリ程度の改修が完成しています。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量80ミリ程度
真如寺川	時間雨量80ミリ程度の改修が完成しています。	-	現状で治水目標レベルを達成済
田能川	時間雨量80ミリ程度の改修が完成しています。	-	現状で治水目標レベルを達成済
檜尾川	昭和54年度より改修に着手し、名神高速道路より下流では、時間雨量80ミリ程度の改修が完成しています。現在、新名神高速道路の関連事業として、磐手橋付近の時間雨量80ミリ程度の改修を進めています。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量80ミリ程度
東檜尾川	平成元年度より改修に着手し、現在、時間雨量50ミリ程度の改修を進めています。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量65ミリ程度
水無瀬川	昭和54年度より改修に着手し、現在、調子橋より上流及び水無瀬橋下流では時間雨量50ミリ程度の改修が完成しています。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量80ミリ程度
年谷川	洪水被害による人命への影響が小さいことから、現在も未改修の状況です。	-	-

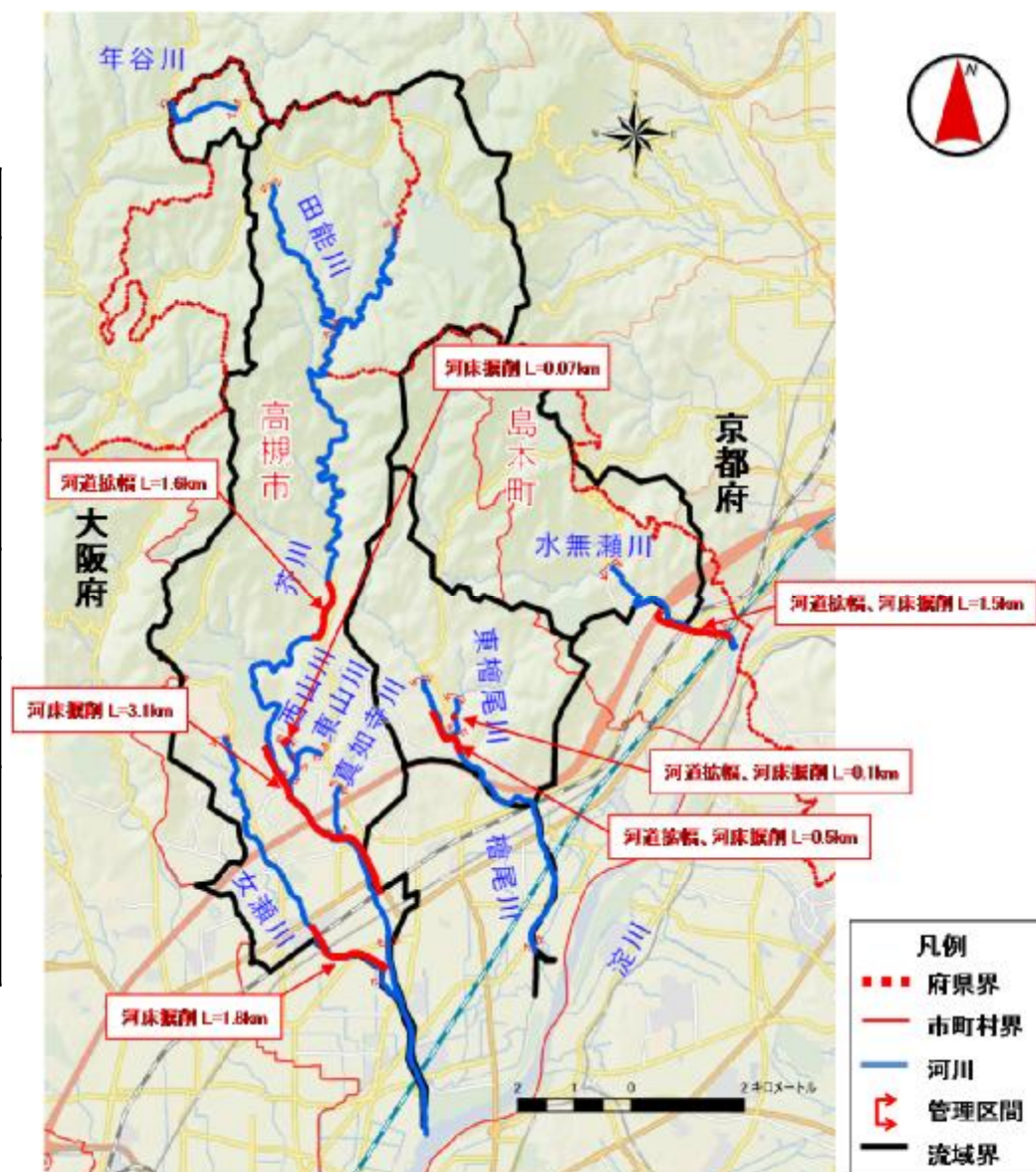


# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

## 1. 洪水対策(P19)

### 整備対象区間

河川名	整備対象区間	整備延長
芥川	JR芥川橋梁下流～西川原橋上流 (4.0km～7.1km) 摂津峡橋大橋上流～原大橋下流 (10.0km～11.6km)	約4.70km
女瀬川	津之江5号橋下流～JR女瀬川橋上流 (0.4km～2.2km)	約1.80km
西山川	無名橋上流～無名橋下流 (0.85km～0.92km)	約0.07km
檜尾川	磐手橋上流～弥生橋上流 (4.5km～5.65km)	約0.50km
東檜尾川	無名橋上流～無名橋下流 (0.45km～0.55km)	約0.10km
水無瀬川	水無瀬橋上流～谷川橋下流 (0.0km～1.5km)	約1.50km



整備対象区間平面図

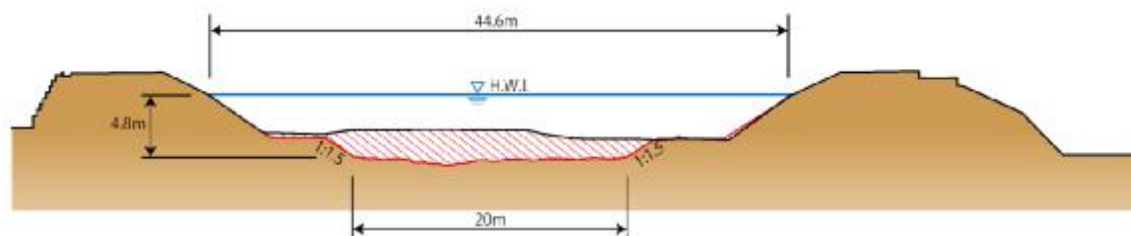
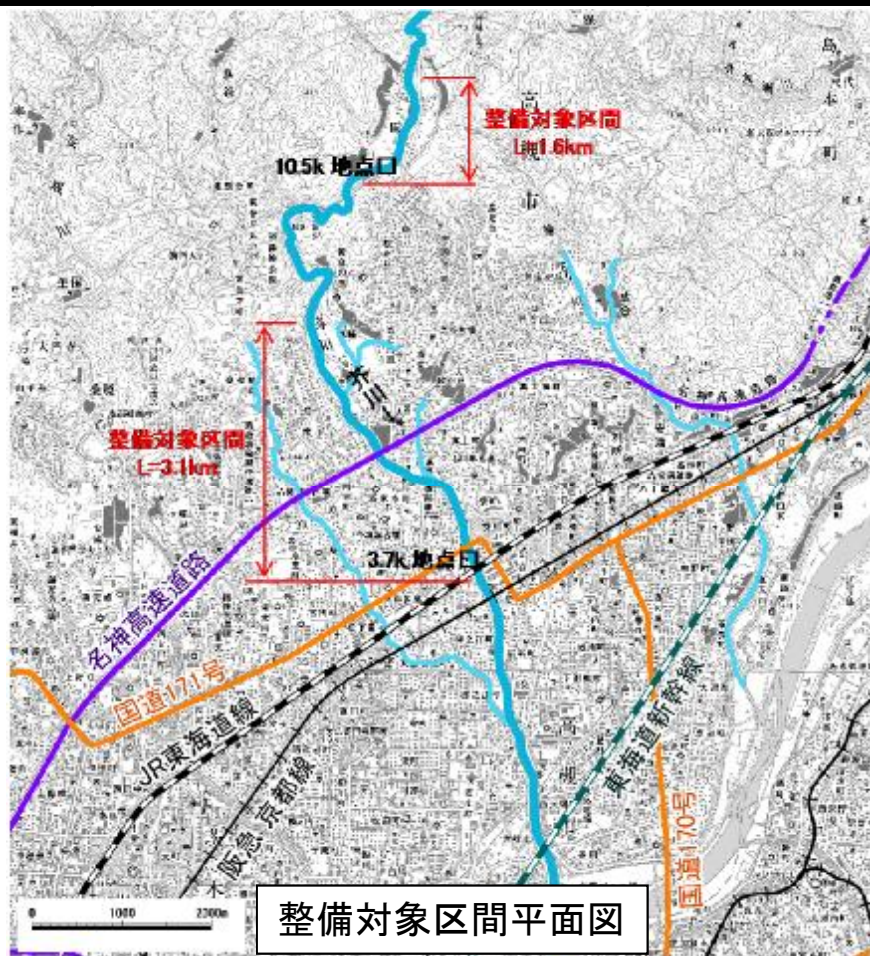


# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

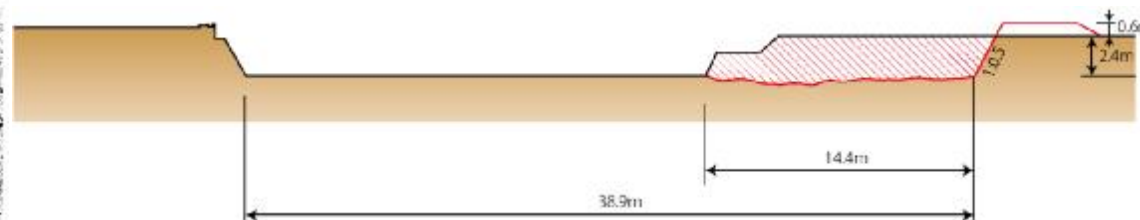
## (1) 芥川の洪水対策(P21・P22)

### 整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
芥川	①JR芥川橋梁下流～西川原橋上流 (4.0km～7.1km)	河床掘削により流下能力を確保します。河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周辺環境との調和に配慮し、上下流の水生生物移動の連続性の確保に努めます。
	②摂津峡橋大橋上流～原大橋下流 (10.0km～11.6km)	河道拡幅により流下能力を確保します。河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周辺環境との調和に配慮し、上下流の水生生物移動の連続性の確保に努めます。



整備断面例(3.7km付近)



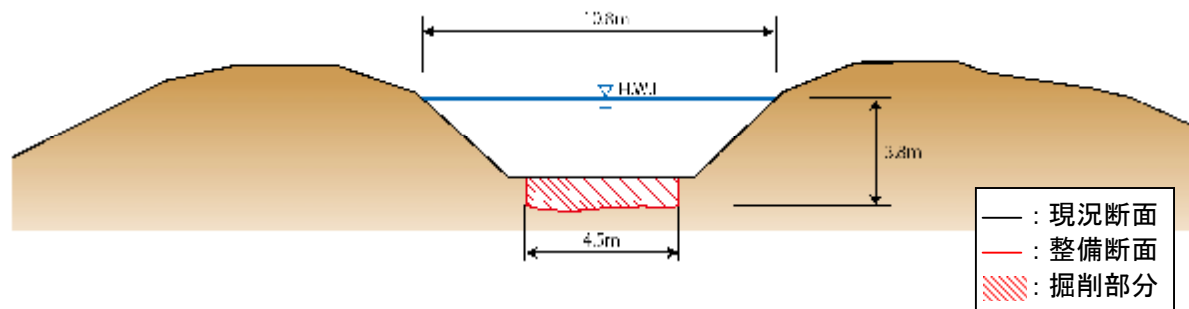
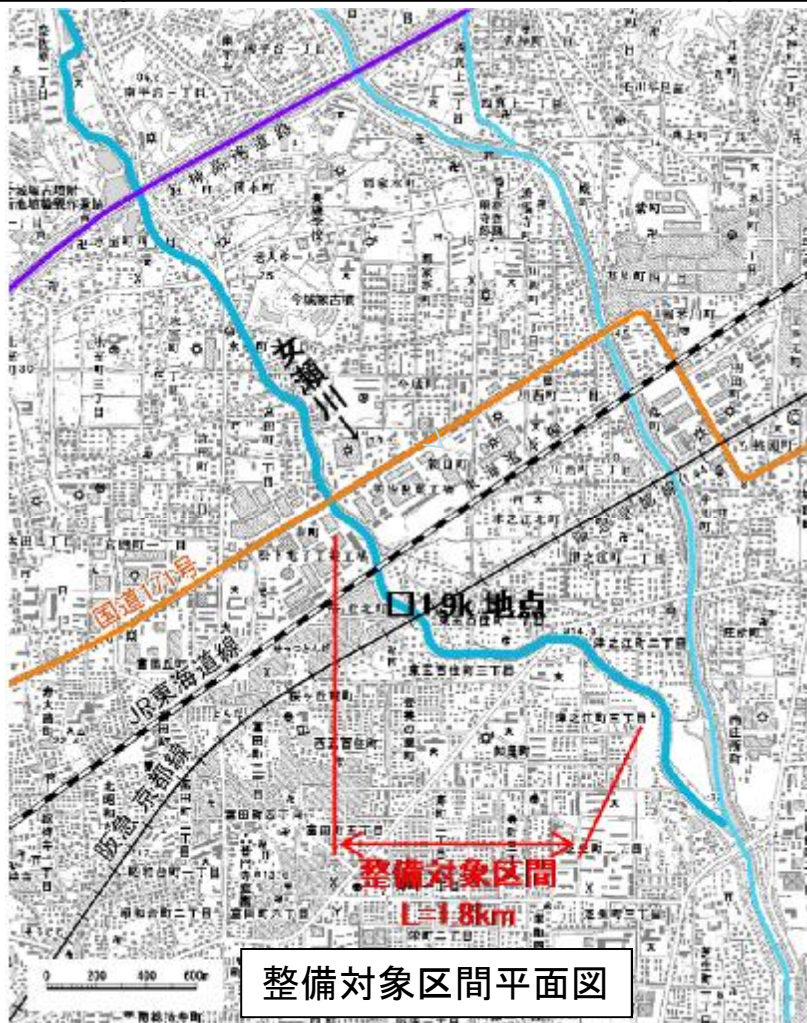
整備断面例(10.5km付近)

# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

## (2) 女瀬川の洪水対策(P23)

### 整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
女瀬川	①津之江5号橋下流～JR女瀬川橋上流 (0.4km～2.2km)	河床掘削により流下能力を確保します。 河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周辺環境との調和に配慮し、上下流の水生生物移動の連続性の確保に努めます。



整備断面例(1.9km付近)

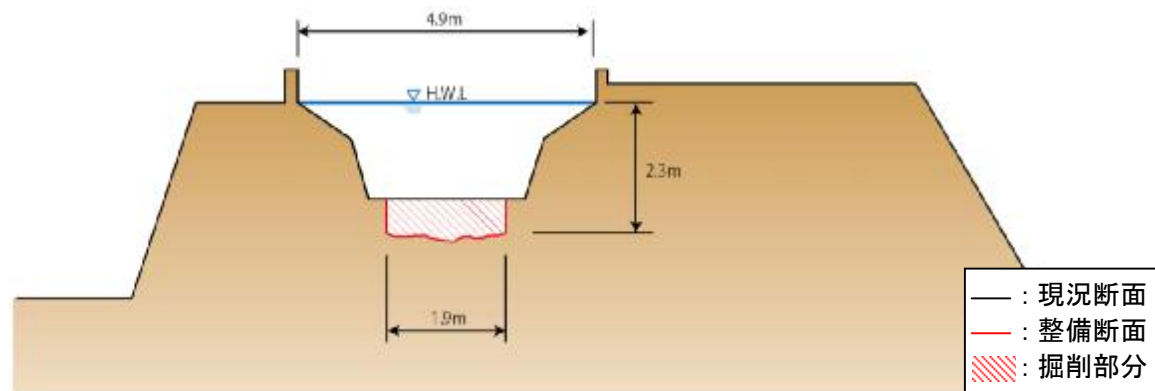
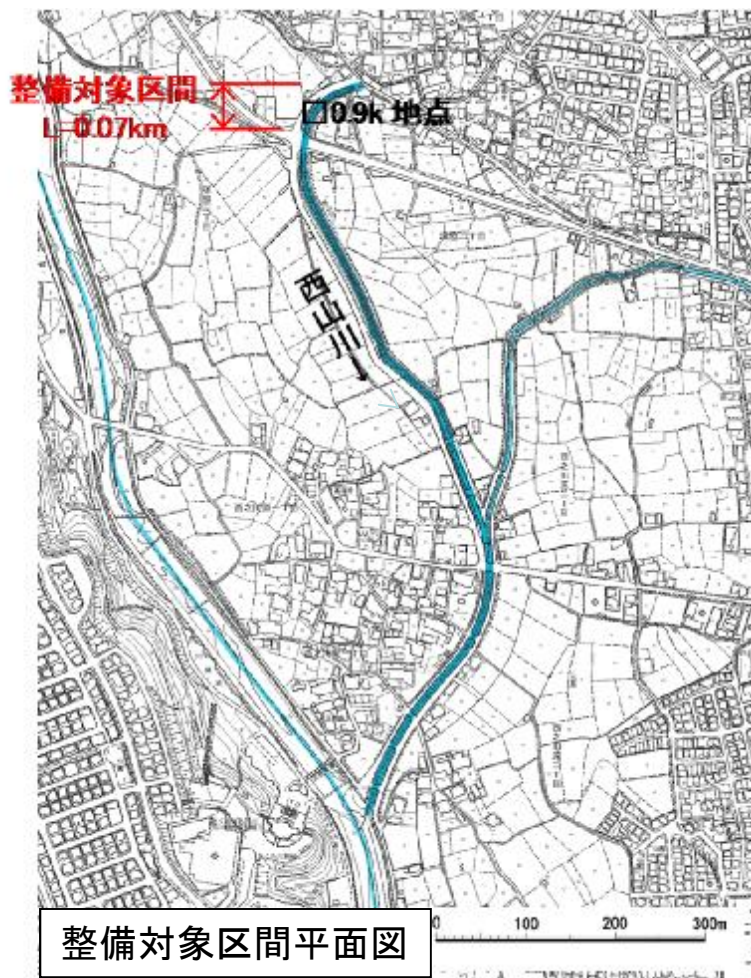


# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

## (3) 西山川の洪水対策(P24)

### 整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
西山川	①無名橋上流～無名橋下流 (0.85km～0.92km)	河床掘削により流下能力を確保します。 河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周辺環境との調和に配慮し、上下流の水生生物移動の連続性の確保に努めます。

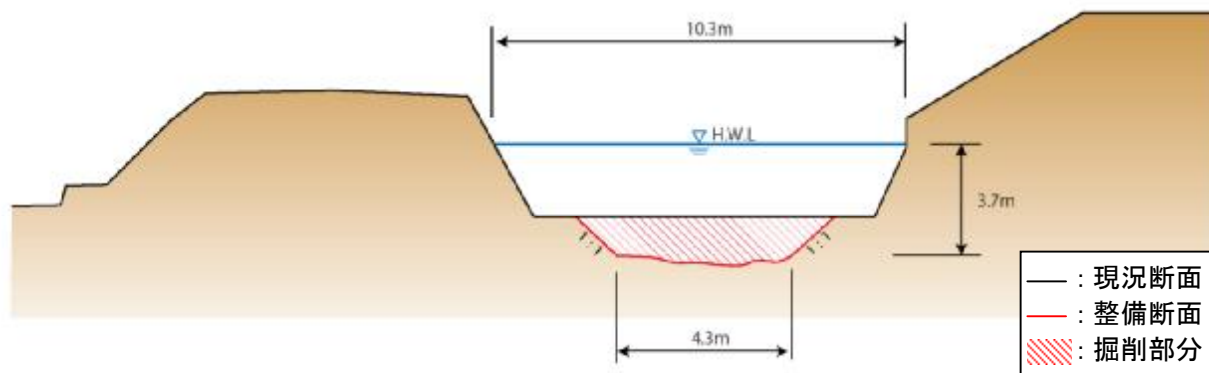


# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

## (4) 檜尾川の洪水対策(P25)

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
檜尾川	①磐手橋上流～弥生橋上流 (4.5km～5.65km)	河床掘削により流下能力を確保します。 河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周辺環境との調和に配慮し、上下流の水生生物移動の連続性の確保に努めます。



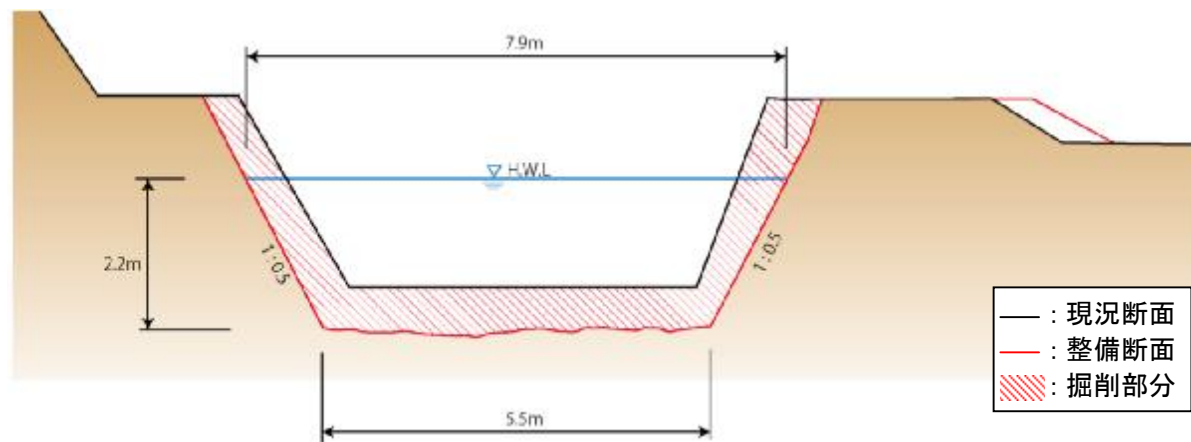


# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

## (5) 東檜尾川の洪水対策(P26)

### 整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
東檜尾川	①無名橋上流～無名橋下流 (0.45km～0.55km)	河道拡幅及び河床掘削により流下能力を確保します。 河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周辺環境との調和に配慮し、上下流の水生生物移動の連続性の確保に努めます。



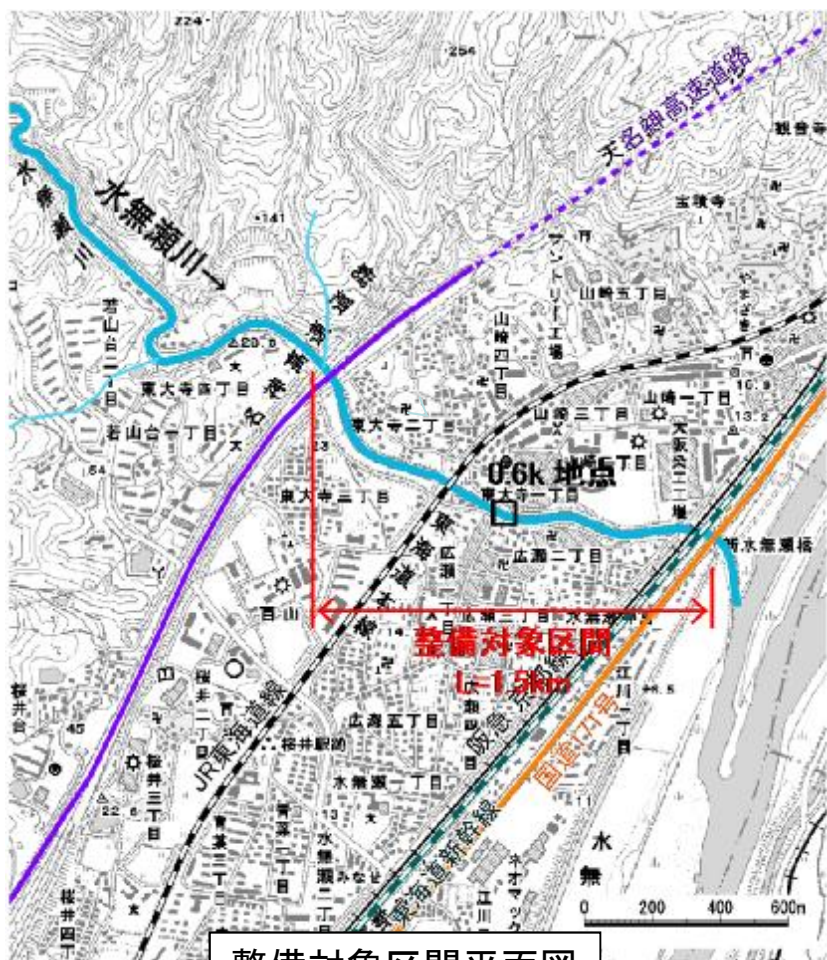
整備断面例(0.5km付近)

# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

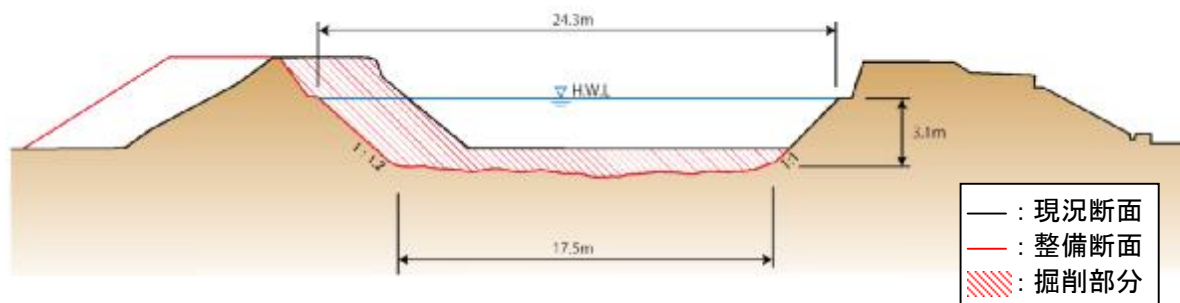
## (6) 水無瀬川の洪水対策(P27)

### 整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
水無瀬川	①水無瀬橋上流～谷川橋下流 (0.0km～1.5km)	河道拡幅及び河床掘削により流下能力を確保します。 河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周辺環境との調和に配慮し、上下流の水生生物移動の連続性の確保に努めます。



整備対象区間平面図



整備断面例(0.6km付近)



# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

## 2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持 (P28)

### (1) 水量

現状・課題(P12)	目標(P16)	実施(P28)
平成24年の芥川の流況は、濁水流量は0.10m <sup>3</sup> /s、低水流量は0.31m <sup>3</sup> /sとなっています。水無瀬川は古くから、濁水期に中流部が干上がることで知られています。市街化の進展に伴う農地の減少による水需要の変動や年間の流量変動、洪水時の動態等、総合的な観点から評価、対策の必要性等の把握を行う必要があります。	河川の適正な利用および流水の正常な機能維持に関しては、今後とも、適正かつ効率的な水利用を目指します。	流水の正常な機能を維持し適正な河川管理を行うため、継続的な雨量、水位の観測データの蓄積と分析による水量の状況把握や取水堰等の流水の利用実態の調査を行います。



水無瀬川の瀬切れの状況

# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

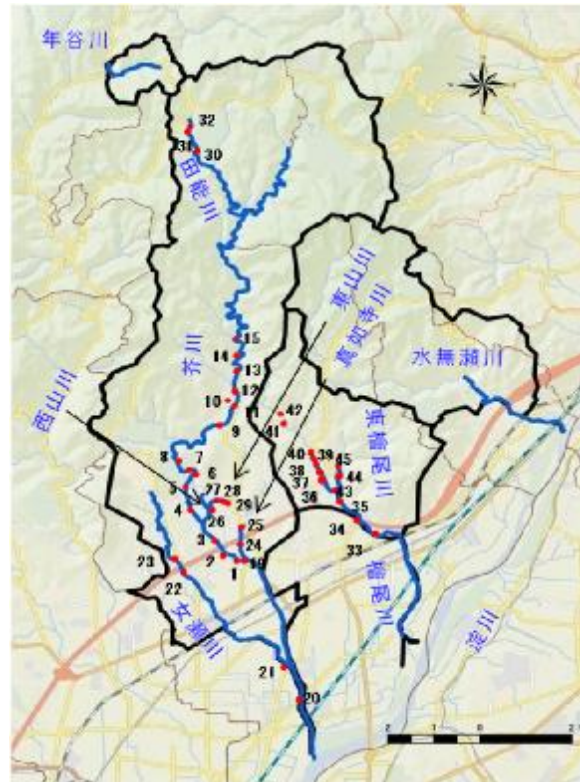
## 2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持 (P28)

### (2) 水利用

現状・課題(P12)	目標(P16)	実施(P28)
<p>河川水は取水堰等により取水され、農業用水として利用されています。</p> <p>淀川右岸ブロックの下流域においては、淀川(五領揚水機場)からポンプ取水された水が、広範囲にわたって、かんがい用水として利用されています。</p> <p>今後、水利用の実態調査や利水者、関係機関との協議を踏まえ、現状の把握に努めるとともに、ため池の有効利用などにより、健全な水循環となるよう、取り組む必要があります。</p>	<p>河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、今後とも、適正かつ効率的な水利用を目指します。</p>	<p>流水の正常な機能を維持し適正な河川管理を行うため、継続的な雨量、水位の観測データの蓄積と分析による水量の状況把握や取水堰等の流水の利用実態の調査を行います。</p>



檜尾川の取水堰



芥川・檜尾川等 取水施設位置図

芥川水系 取水施設諸元

番号	河川名	施設名
1	芥川	水疎用水樋
2		下井出井堰
3		今井手井堰
4		川島井井堰
5		田刈井堰
6		服部一の湯井堰
7		広用水取水口
8		一の川原井堰
9		佐倉用水樋
10		大島堰堤
11		川原井出井堰
12		下垣内頭首工
13		今井堰堤
14		西垣内堰堤
15		大井出頭首工
16		鬼ヶ谷堰堤
17		島崎用水
18		あまが瀬取水口
19		岩尾堰堤
20		建切用水樋
21		芝生大樋樋門
21	女瀬川	芝生用水樋
22		水室川水門
23		中の池井堰
24	真如寺川	北畑取水口
25		キツネ塚取水口
26	東山川	東田刈用水取水口
27		宮之川原第3取水口
28		宮之川原第2取水口
29		宮之川原第1取水口
30	田能川	寿代1号取水口
31		スハノ下2号取水口
32		スハノ下1号取水口

檜尾川水系 取水施設諸元

番号	河川名	施設名
33	檜尾川	檜尾川堰堤
34		安満用水取水口
35		佐保用水樋管
36		笠松樋管
37		西条樋管
38		琴堂用水樋管
39		麻野河原樋管
40		西谷用水樋
41		さいか堰堤
42		原熊ヶ谷用水第1号取水口
43	東檜尾川	尾崎河原取水口
44		総数樋管
45		西北浦取水口

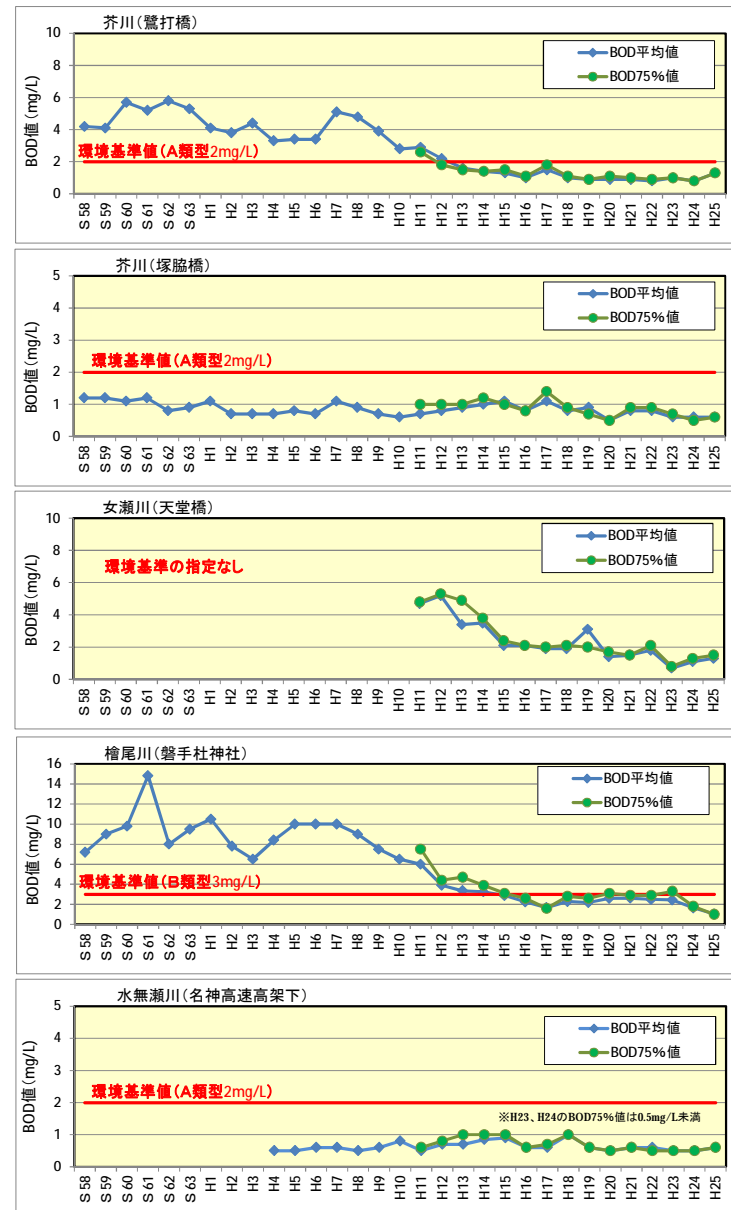


# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

## 3. 河川環境の整備と保全 (P28)

### (1) 水質

<p>現状(P12)</p>	<p>芥川の水質汚濁にかかわる環境基準は京都府界から塚脇橋までがA類型、塚脇橋より下流の淀川合流点までがB類型に指定されています。檜尾川は全域B類型、水無瀬川は全域A類型に指定されています。</p> <p>平成25年度の調査では、いずれの地点も環境基準を満足しています。</p> <p>このように、淀川右岸ブロックの各河川では環境基準を満足し、良好な水質ですが、今後も継続して維持していく必要があります。</p>
<p>目標(P16)</p>	<p>下水道等の関係機関や、地域住民と連携し、より一層の改善を目指します。また河川で活動している地域住民やNPO等との連携し、河川美化、環境教育などにより水質の改善を目指します。</p>
<p>実施(P28)</p>	<p>環境基準を満足することはもとより、多様な生物の生息・生育環境を保全するため、流域市町の環境部局による行政指導や下水道整備・接続を促進し、河川への生活排水の流入の削減に努めます。また、関係機関や地域住民、学校、NPO等と連携し、水質改善に向けた環境学習、啓発活動等を進めます。</p>



水質調査結果

# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

## 3. 河川環境の整備と保全 (P28)

### (2) 空間利用

現状・課題(P13)	目標(P17)	実施(P28)
<p>芥川や水無瀬川の公園や渓谷は、花見や散歩、水あそび、釣りなど楽しむ多くの人々にぎわっています。</p> <p>芥川や檜尾川、水無瀬川では、地元の多くの有志、団体により定期的に河川清掃のボランティア活動が行われています。芥川、檜尾川においてはアドプト・リバー・プログラムの活動が行われています。</p> <p>このような活動を行うにあたり、河道内へのアクセスの乏しい箇所については、地域住民のニーズに応じて、河道内へのアクセスの改善を図る必要があります。</p>	<p>河川環境の整備にあたっては、河川を利用する人々の憩いの場となるよう親水性に配慮した整備を目指します。</p>	<p>河道内へのアクセスの乏しい河川では、安全対策と利用ルールを策定し、親水階段の設置等、地域住民のニーズを踏まえ、アクセスの改善を図ります。</p> <p>また、芥川では、高槻市が申請、平成26年3月に国土交通省が登録した「かわまちづくり」計画に基づき、河川整備や遊歩道整備等を行います。</p>



桜津峡公園



芥川緑地(あくあびあ芥川)



こいのぼりフェスタ



土のうによる護岸崩壊の危険



特定外来生物「ミスヒマワリ」駆除活動



桜堤公園



防災ステーション



東大寺公園



芥川クリーンアップ大会



水辺の学校

河川空間利用状況

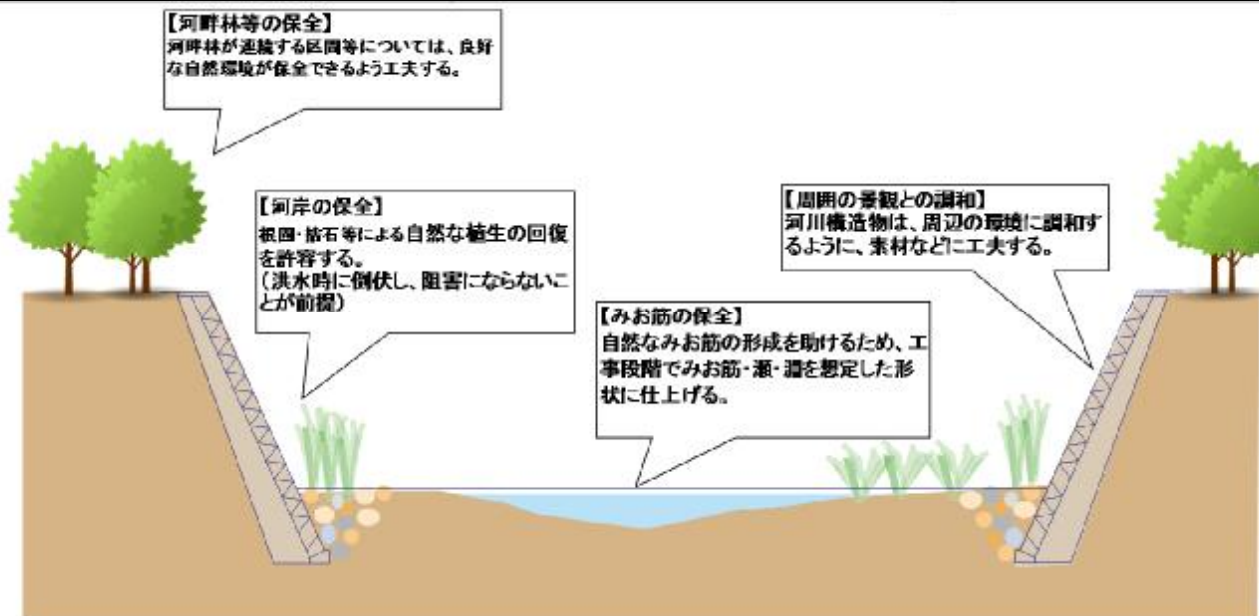
地域連携

# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

## 3. 河川環境の整備と保全 (P28)

### (3) 自然環境

現状・課題(P13)	目標(P16)	実施(P28)
<p>淀川右岸ブロックの各河川では、取水堰等の落差により、多くの生物の行動範囲が限定され易い状況ではありますが、その状況下でも取水堰を遡上している種も確認されています。芥川では、回遊性のアユが、平成23年の調査結果において、広範囲で確認されています。</p> <p>このことから取水堰に設置されている魚道については、その機能を今後とも維持していく必要があります。また、魚道が未設置の取水堰や落差工に対して、河川における連続性の確保について検討する必要があります。</p>	<p>河川工事実施に際しては、河川全体の自然の営みや周辺環境の土地利用状況を視野に入れたうえで、「河岸やみお筋の保全」、「上下流の生物移動の連続性確保」、「周囲の景観との調和」など河川毎の特性に応じ、多自然川づくりを取り入れ、それぞれの河川が本来有している生物の生息・生育環境の保全・再生を目指します。</p>	<p>農業用の取水堰や床止め工等の河川横断構造物の調査を行い、利用実態のない取水堰の撤去や床止め工の改善と合わせて、魚道の設置等により上下流の連続性の確保に努めます。また、整備や補修を実施する際には、自然環境や景観に配慮し、適切な対策を行います。なお、淀川本川との合流点付近の落差については、改善の必要性や実現性等について関係機関と協議を行います。</p>



多自然川づくりイメージ図

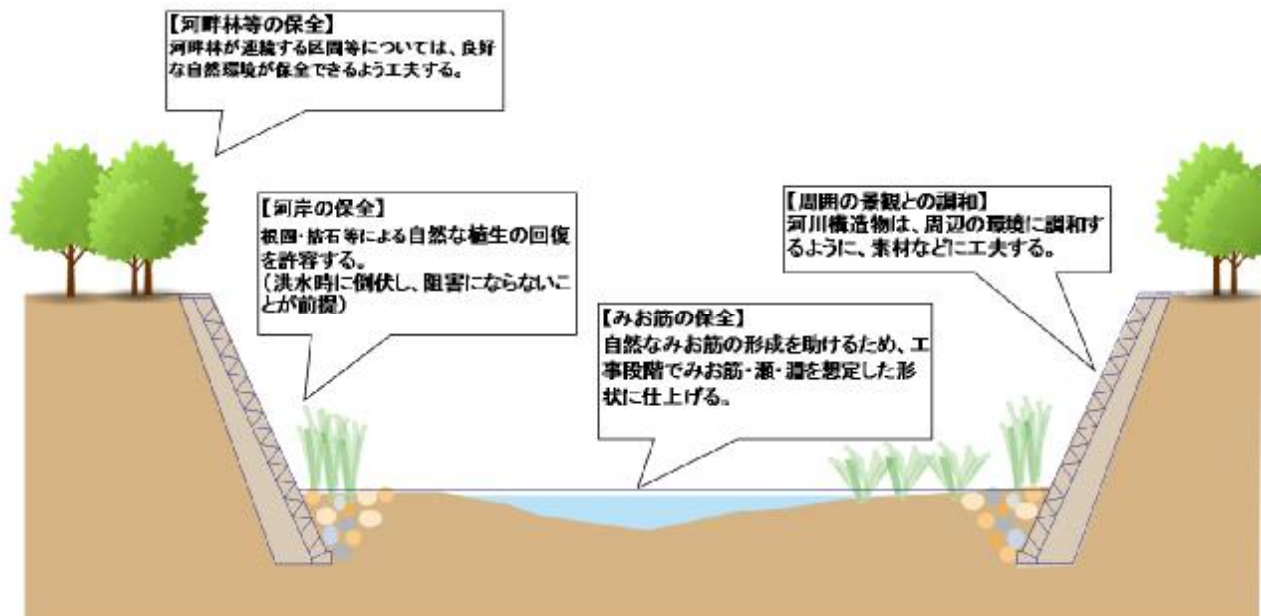


# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

## 3. 河川環境の整備と保全 (P28)

### (4) 景観

現状・課題(P13)	目標(P16)	実施(P28)
<p>芥川、檜尾川、水無瀬川は、一部を除いて、コンクリートブロック積護岸等が連続するため、人工的な景観となっており、また、瀬と淵が分布している箇所や砂州に植生が繁茂している箇所も見られます。</p> <p>河川整備や維持管理にあたっては、砂州上の植生は、流水の阻害となるため、改善を図りつつも、周囲の景観に配慮する必要があります。</p>	<p>豊かな河川環境は重要な地域資源であり、良好な景観を維持・形成するため、川の周辺も含めた空間を考え、景観に配慮した材料を採用するなど、周辺環境との調和を目指します。</p>	<p>河川整備の際には、周囲の景観に配慮した護岸材料の選定の工夫を行うなど、河川周辺の土地利用などと調和した河川景観の形成に努めます。</p> <p>瀬や淵、河道内の植生など良好な自然環境が見られる箇所もあり、河川整備にあたっては河床の平坦化を避け、瀬や淵、水際植生など、動植物の生息・生育環境の保全・再生に努めます。</p>



多自然川づくりイメージ図